

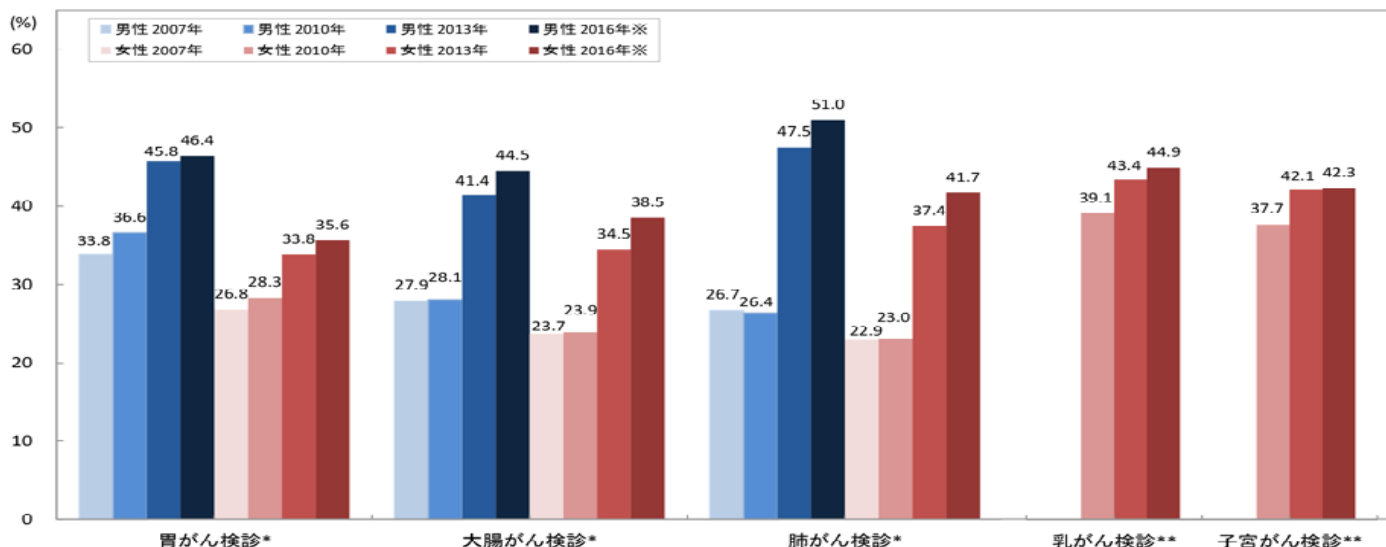


## 当院における胃内視鏡検査について

健康に対する関心が高まっている近年、国の対策においてがんの検診受診率を向上する目標が掲げられた結果、検診受診率は下のグラフのように少しずつ増加しています。がんは検診により早期発見が可能となるばかりでなく、早期に治療すれば死亡率を低下させることができます。そこで、今回は早期発見のための検査または治療の一つである胃内視鏡についてご紹介いたします。

男女別がん検診受診率(40～69歳)の推移

国民生活基礎調査より国立がん研究センターがん対策情報センターにて作成



\* 過去1年間の受診有無  
\*\* 過去2年間の受診有無 (過去2年間の受診有無は2010年調査から)  
※ 2016年は熊本県を含まない

出典：国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策情報センター

胃内視鏡検査を受けられる方の感想として、「もう受けたくない」という方もいれば、「全然辛くないから毎年受けている」という方もいて、胃内視鏡検査に対する感じ方は人それぞれです。検査を『辛い』と感じる要因は、内視鏡という異物が体内に挿入されることによる不安や違和感、内視鏡がのどに触れることによる嘔吐反射が考えられますが、内視鏡検査を躊躇しているうちに病気が進行する可能性があります。そこで、当院における胃内視鏡検査についてご案内いたします。



### 胃内視鏡検査方法には

**①経口内視鏡 ②鎮静剤使用による経口内視鏡 ③経鼻内視鏡 があります。**

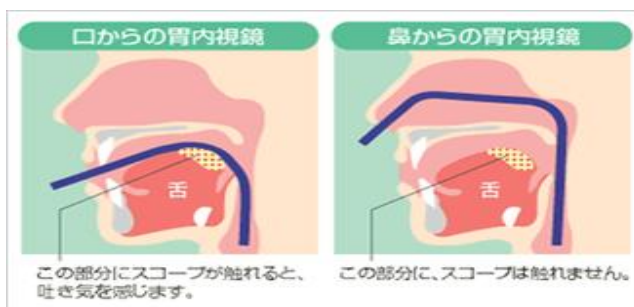
**①経口内視鏡**：一般的な内視鏡検査で、口から内視鏡を入れて検査します。内視鏡の外径は8~9mm程度です。検査前にキシロカインという成分が入ったゼリーやスプレーで喉麻酔して、目が覚めた状態で検査します。嘔吐反射が強い方には辛い検査になりますが、検査後に異常がなければすぐに帰宅でき、喉麻酔がきればすぐに食事もできます。経口内視鏡検査は、経鼻内視鏡検査より画質や処置能力の点で優れているため、より精密な検査や治療を行う際は経口サイズでの内視鏡検査を行います。

②**鎮静剤使用による内視鏡**：静脈注射で鎮静剤を投与して、ボーっと眠ったような状態で検査します。意識レベルが低い状態で検査を受けることができるため、検査時の苦痛が軽減される効果が期待できます。人によっては、検査中は寝ていて検査が終わったことに気づかないこともあります。また、鎮静剤による偶発症（呼吸抑制、血圧低下、刺激興奮など）があるので、CO<sub>2</sub> モニターなどを使用しながら安全に検査を行っています。検査後は、①30 分程度ベッドで休んでいただく、②自動車・自転車・バイクの運転はできない、③75 歳以上の方は付き添いが必要になる、などいくつかの注意事項があります。



\* 鎮静剤の準備で針を入れます。部屋に入り横になってから薬を入れます。

③**経鼻内視鏡**：経鼻内視鏡は、鼻から細い内視鏡を入れて検査します。内視鏡の外径は 5~6 mm 程度です。検査前に鼻腔内に粘膜のむくみをとる液体や麻酔のゼリーを入れて鼻腔麻酔し、喉麻酔して目が覚めた状態で検査します。検査中も検査医と会話することができて、嘔吐反射が少ないメリットがあります。鼻腔が狭い方は鼻出血を起こすことがあるので、その場合はご本人と相談の上、経鼻内視鏡から経口内視鏡へと変更になることもあります。



下の写真は実際の内視鏡検査画像です。左が経口内視鏡検査の画像で、右が経鼻内視鏡検査の画像です。どちらも定期的な検査では十分な画質で、異常があれば組織検査もできます。



←経口内視鏡



←経鼻内視鏡

出典：公益財団法人早期胃癌検診協会

当院における内視鏡検査にはいろいろな方法があり、個々の症状や病気にあった検査を行っておりますので、内視鏡検査を考えている方は、一度外来でご相談ください。お待ちしております。

健康診断のご予約やご相談は、Tel.03-3668-6806 へご連絡ください。



今後もニュースレターを発行し、皆様の健康管理に少しでも参考になればと思います。ぜひ皆様からのご意見、ご感想をお寄せください。今後もこのニュースレターやホームページ等を通じ、役立つ情報を発信してまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

公益財団法人早期胃癌検診協会 事務局  
Tel.03-3668-6803/E-mail:mail@soiken.or.jp